

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区白河3-10-8 福進ビル1～3階
施設名	小鳩保育園 清澄白河

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

組み合わせ遊び

〈テーマの設定理由〉

子ども達が夢中になって遊ぶ時には異なる玩具、用具などを組み合わせて遊びを広げる姿が多く見られる。組み合わせて遊ぶ過程のなかで、試行錯誤を重ね、新しいものを生み出す体験や柔軟な思考、発想力を培ってほしいと考えテーマに設定した。

2 活動スケジュール

5月 子どもの遊ぶ姿をもとに、必要な物品や援助、環境構成について話し合う。
6月 話し合いをもとに環境を設定し、少人数グループでの探究活動を実施する。
 午睡時間に参加職員で振り返りを行う。
7月 クラスごとに6月の振り返りをもとに、参加していない保育者へ共有し、次の環境構成や関わりに活かす。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

子どもが異なる素材や用具を自由に組み合わせ、遊びを広げられるよう、画用紙や折り紙、テープ類、木切れ、カプセルなど多様な素材を用意した。
また、のりやボンド、ペンなどの用具を手に取りやすい位置に配置し、必要に応じて自ら選び使える環境とした。
さらに、おままごとやブロック、人形など既存の玩具と素材を組み合わせるようにし、子どもが発想を広げながら試行錯誤できるよう工夫した。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

日々の遊びの中に、玩具や素材、用具などを取り入れ、それらを組み合わせて見立てながら遊びを広げる活動を行った。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

・4・5歳児は、休日に経験したことを遊びの中で再現しようとしていた。画用紙やお花紙などの素材を組み合わせて食べ物に見立て、焼き目をペンで描いてバーベキューごっこの材料をつくっていた。「キャンプをしよう」「テントを作ろう」と子ども同士で言葉を交わしながら、遊びが広がっていった。

・絵本（はらぺこあおむし）を見た2歳児が、マグネットブロックで蝶のような形を作ろうとしていた。ブロックの形や色を組み合わせながら、繰り返し試す様子も見られた。

・1歳児はおままごと遊びの中で、保育者が円卓に人形を座らせる様子を見て、人形の隣に椅子を運び、一緒に遊び始めた。その様子を見た他児も円卓の周りに集まり、玩具でご飯をつくったり人形や保育者にご飯を食べさせる真似をしたりする姿が見られた。



2枚
ります



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子どもたちは、身近にある素材や玩具を組み合わせながら、遊びを広げていく姿が見られた。素材の組み合わせによって形や見え方が変わることを面白がり、繰り返し試したり、別の素材を加えたりしながら、自分なりに工夫していた。

また、一人の遊びがきっかけとなり、他児が興味をもち関わることで、遊びのイメージが共有され、さらに展開していく様子も見られた。

こうした姿から、子どもは組み合わせる中で新たな面白さに気づき、試しながら遊びを発展させていくことが分かった。保育者は、その過程に寄り添い、子どもの気づきや試行を支える関わりや環境を大切にしていける必要があると感じた。